

◇ 学 校 通 信 ◇

令和6年7月号

(令和6年7月3日発行)

桶川市立加納中学校

加納中だより

<http://www.okegawakanou-jh.edmap.jp>

《校 訓》 自主の風

《学校教育目標》

きらめく心、光る汗

生徒数 365名

「育つ」ということ ～心身ともにたくましい生徒に～

校長 矢澤 等

6月26日(水)から29日(土)を中心に、学校総合体育大会の班予選が行われました。各種目で、生徒たちの懸命に競技する姿や仲間を応援する様子を見ることができました。保護者や地域の皆様も、会場まで足を運んでくださり、温かいご声援をいただきまして、厚く御礼申し上げます。本校生徒たちに、これまで関わってくださった多くの方々のお蔭で、このようにたくましい生徒に育ったのだと、改めて実感いたしました。

「育てる」と「育つ」は、言葉は似ていますが、意味合いは少し違います。幼少時代は、多くの大人から「育てられ」、その安心感から学びを積み上げていきます。しかし、思春期に入ると、子供自身が学び、経験を通して個性や可能性を伸ばして「育って」いくのだと思います。壁に当たっても、それを乗り越えたり、失敗しても、反省をプラスに生かしたりする経験を重ねて、たくましが身につきます。私たち大人にも、その間、子供たちに任せ、見守る姿勢が求められます。

以前、部活動の指導をしていた頃に、私は、子供自身が「育つ」ことよりも、教員が「育てる」という意識が強かった時期がありました。その時、ある指導者から、『教えずぎるな。特に「判断」は子供にさせろ。そうでないと、みんな指導者以下の選手になってしまうぞ。』と助言されました。同じ時期に、高校野球やプロ野球等で活躍された、元巨人軍の桑田真澄さんが、あるインタビューの中で『教わったことはすぐに忘れる。自分で会得したことはずっと忘れない。』と述べられ、はたとさせられたのをよく覚えています。

大人と子供の違いは、やはり経験の量です。真剣勝負の公式戦やコンクール、重要な試験や面接など、一度味わってみないと実感できないことがたくさんあります。極度の緊張感や重圧の中で、たくましさを発揮するためには、日頃から地力を身に付けておく必要があります。そのために、子供自身が「育ち」、積み上げてきた学びや、続けてきた努力で、自らを信じられるようになってもらいたいです。

7/1～7/7 「全国安全週間」

厚生労働省は、人命尊重の基本理念の下、広く一般の安全意識の高揚と安全活動の定着を図ることを目的に、この活動を推進しています。危険個所への意識や熱中症対策などを行います。

7/15～7/24 「夏の交通事故防止運動」

埼玉県では、夏の解放感から起こる交通事故防止の徹底を図ることを目的に、この運動を実施しています。自転車乗車時のヘルメット着用促進と交通ルールの遵守などをお願いします。